

旅先で利用した図書館

- 思い出すままに -

甲斐 愛子

十数年前、私はオーストラリアのブリスベンに短期間滞在した経験がある。その折学校に行っていたと言う事もあってクイーンズランド州立図書館（State Library of Queensland）とブリスベンの市立図書館（Brisbane Square Library）を何時も利用していた。そして、クイーンズランド議事堂（Queensland The Parliament House）の図書館は見学をする機会があった。クイーンズランド州立図書館とブリスベンの市立図書館は利用者として日々感じたこと、クイーンズランド議事堂の図書館は資料等の印象を思い出して見たい。

クイーンズランド州立図書館の位置は繁華街、いわゆるモールを少し外れた場所、文化施設の集合しているエリアにあった。場所としては好位置にある。ブリスベンは川の街、蛇行した川に沿って建てられている。川に面し文化施設に囲まれた、静かな雰囲気この図書館には土曜、日曜と通った。バスを降り大きく長い橋を渡り、近くに広がっている公園を眺めながらエントランスまでたどり着く。楽しみながら歩いた。

閲覧室に入る前に荷物をコインロッカーに入れ、持ち込みは筆記道具とノートだけ、現在は同じ場所に再建築され全て持ち込み可であるが、システムの相違、当時は厳しかった。私は何時も座る場所があった。それは建物全体が川に面しているため、閲覧室の机は川に向かって置かれている。出来るだけ窓際に座る事にしていた。長時間座っていると疲れる、その時目を窓の外にやると川の風景と、ブリスベンの川は交通路になっていてバスと同じ間隔でフェリーが走っている。のんびりとそれを見、対岸はハイウェイ、車が玩具のように動くのを見ていると不思議に和む。

閲覧室の机には6人は座れる広さがあった。椅子はキャスター付きで動かすのが楽であった。閲覧室で利用した本は元の位置に利用者が戻すのではなく一定の場所にあるブックトラックに置き、図書館員が絶えず配架している。別に決まった人ではなく気の付いた館員が行っているようだった。時々必要な本（大体辞書類であったが）の位置がわからずレファレンス担当者に聞くとこやかな笑顔で対応してくれる。英語が堪能ではないので緊張して質問する私には嬉しい事であった。言葉の壁があっても安心出来る。笑顔は大切なのだ。

館内にはレストランと小さな文房具店があり、筆記用具の必要な時には便利である。レストランも川に面して、ランチタイムには長時間居座って店員に睨まれたり、知らない人と話したり、楽しい時間であった。ただ、不便だったのは閲覧室の入り口にはチェックポイントがあり、出入りの時には荷物を調べられる。仕方のない事ではあるが。

当時の図書館には全体的に暖かさがあった。近年再訪した折には再建築され正確には判

らないがコンピュータールームには 100 台以上あると思われるパソコンが置かれ、資料の検索は全てそこで出来る様になっていた。以前の図書館にもパソコンはあった、しかし台数が少なく資料の検索は順番まちで、しかも館員しか扱えなかった。その不便さも今は全て解消されている。

私は利便性を追及し進化して行く図書館を否定するものではないが、古い建物、古い雰囲気懐かしんでいる事は確かだ。

ブリスベン市立図書館はモールの中にあり、いわゆる買い物をしながら図書館を利用できる位置にあった。学校の帰りにはモールの中を通るのでウィークデイには短時間ではあったが毎日の様に利用した。ここは州立図書館のように静かではない。図書館は狭く利用者が多く人の出入りが激しい。入り口近くには児童図書スペースがあり、子供達が自由に本を広げている。学生が多い。その割に閲覧機は少ない。

或る時手持ちの辞書では出てこない単語があり、英和大辞典を探したが見つける事が出来なかった。そこで、リクエストをする事にした。レファレンスカウンターに行きお願いをすると、リクエスト用紙に記入するように言われた。

BRISBANE CITY COUNCIL
HOLD/REQUEST
Library Services

Suggest as to purchase (英和)
good ENG-JAPANESE Dict. by

Author
Kenkyusha, Ltd. Tokyo, Japan

Title
Kenkyusha's New English-Japanese dictionary on delusional principles

Publisher/Source
Kenkyusha (Japan)

This item is required in Large print or on Audio cassette

Please complete the barcode number as it appears on the front of your Library Card

2 4 0 0 0

Surname/Family name Initials Date

CC208 (1/14)

実際に使用したリクエスト用紙

滞在中にはおそらく見る事は出来ないだろう、とは思ったが、今後来る人の為に役立てればとの思いがあった。

レファレンスカウンターには何時も行列が出来ていた。3人の担当者は休む暇もなく対応していた。或る日館内に入ると返却本が閲覧機に山積みされていて若い女性の図書館員が一人で配架している。なかなか進まない「お手伝いしましょうか？」と声をかけると、怪訝な顔をしていたが、男性の上司らしい人を連れてきた。「私は図書館に勤めていたので配架できますから」と伝え、OKの言葉が返ってきた。私が配架を始めると女性の図書館員は居なくなり私一人で配架する羽目になってしまった。分類はDC、言語、文学、歴史

はNDCの類目とは異なるがさほど差し支えはない。しかし分類の桁数の多いのにはいささかくたびれた。約一時間、終わった事を館員に伝えると、にこやかな笑顔でお礼を言われど様な図書館にいたのか、と質問をされ英語力が無い為しどろもどろの答えになってしまい、情けない思いをしてしまった。

近年、市立図書館はモールを外れた場所に移転し近代化された新しい図書館に生まれ変わっている。州立図書館の対岸に面し静かな環境となって、再訪した折り中に入るのに気後れしそうな雰囲気であった。建物の大きさ完備された設備、あの古い図書館の面影は全く無くなっていた。

クイーンズランド議事堂の図書館は1800年代建設された歴史的建造物の中にあり、フランスルネッサンス様式で文化遺産となっている。荘厳ささえあるこの建物には二度訪問した。最初は一人で行き図書館員に案内されたのだが、二度目は友人と共に訪問したので案内は職員であった。図書館はオドノバンコレクション図書館と言われ議事堂図書館の館員であったオドノバン氏の収集した資料が収められている。その説明を議事堂発行のパンフレットより引用する。



(パーラメントハウスにて)

The O'Donovan Collection Library is dedicated to Denis O'Donovan, The Queensland Parliamentary Librarian between 1874 and 1902. A Contemporary and colleague of the famous cataloguer Melvil Dewey, O'Donovan substantially added to the existing Parliamentary Library collection and created a catalogue of the parliamentary library's contents. This "encyclopedic" dictionary catalogue was widely applauded at the time of its creation and is still used today.

オドノバンコレクション図書館は1874年~1902年の間にクイーンズランド州議会図書館員であったデニス・オドノバン氏が収集した書物を所蔵している。オドノバン氏は当時の州議会図書館に多くのコレクションを加え、著名な目録制作者メルビル・デューイ氏と共に州議会図書館の資料目録を制作した。この“百科辞典”の様な目録は当時広く賞賛され、今でもまだ使われている。

オドノバン氏の制作した目録は当時修理に出して置いて見る事は出来なかった。歴史と風格のある図書館の本は一冊一冊が過去の歴史を語ってくれる。しかし何が大切で、何が大切でないか、書架に並ぶ本を見ていると自ずから解る様な気がする。

私は長い年月図書館に関わってきたが、今でも自分の中での図書館とは、と自問自答する事がある。この地で利用した図書館、また見学した図書館のスタッフと接するに付け感じる事は、彼等は自信を持って対応してくれる、それは確かな知識に裏付けされたものであろうか？ 自問自答するのは私自身の知識不足に対する不安からであろう。と思う。

利用者として訪れた図書館ではコミュニケーションが巧みいかず、目的を達せられなかった事もあった。逆に図書館員のアドバイスで必要な資料を得る事もあった。立派な図書館であれ、そうで無い図書館であれ、資料を最大限に活用させるのは図書館員であって機械ではない。豊富な知識を有しいかなる利用者に対しても対応出来る図書館員でありたい、と願っている。

気にかかる言葉がある「立派な図書館は大きかったり、美しかったりする必要は無い、最高の設備とか非常に有能なスタッフだとか、最高の利用者は必要ない。立派な図書館は必要なものを与えてくれる、地域社会の生活にすっかり溶け込んでいるので、かけがえのない存在になっている、いつもそこにあるので、誰も気がつかないのが立派な図書館だ。そしてみんなが必要とするものを常に与えてくれる・・・」(『図書館ねこデユウイ』ヴィッキイ・マイロン著 羽田詩津子訳) 考えさせられる文章である。

(かい・あいこ 元別府大学附属図書館)